

歴史博物館 昔あそび

・毎月第2土曜日 紋切りあそび 折り紙の金魚つり

型紙に折り紙をあてて切り抜くと、素敵な紋様が
できあがります。季節限定の紋様も登場します。
折り紙の金魚つりあそびもやっています。金魚以
外の魚も…？



・毎月第3土曜日 火打ち石体験

火打ち石と火打ち金を使った
火おこし体験です！
ろうそくに火をつけられるかな？

・毎月第4土曜日 紋切りあそび

紋切りあそびの他に、お手玉あそびも
やっています。お手玉のいろいろな
技を磨いてみよう！

紙芝居劇場以外の昔のあそび体験については下記の場所と時間で実施いたします。

場 所：当日 館内の案内からご確認ください。

時 間：13:00～15:00

「発見・体験 昔の暮らし」 関連行事

・毎月第1土曜日 歴史博物館 紙芝居劇場

昔懐かしい自転車紙芝居です！いろいろな
紙芝居を見ることができます。1日2回。
公演終了後にはカタヌキのおまけもあります。
毎月違う演目です！
どんな演目か、見てからのお楽しみ♪

毎月第1土曜日に開催している「紙芝居劇場」が、期間限定
で歴博2階特別展示室に出張！同室で開催中(2月4日ま
で)の「発見・体験 昔の暮らし」とセットでぜひご覧ください。
3月以降は通常通りの紙芝居となります。(場所:1階常設展示室)

場 所：歴史博物館 2階 特別展示室

時 間：①13:30～ ②14:30～ (各回30分程度)

日 時：2月3日(土)

※都合により予告なく内容が変更・中止になる場合がございます。予めご了承ください。

ご利用案内

【時間】 9:00～16:30

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)

【入館】 無料、補助犬同伴可
車いす各館1台あり

【駐車場】 一般車30台

お体の不自由な方等
の車両 各館1台あり
大型バスの利用不可

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館および駐車場の
利用時間が変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。



考古・歴史博物館だより

第69号

発行 令和6年1月

縄文体験フェスティバル in 堀之内貝塚開催！

考古・歴史博物館では、3月に「縄文フェス
ティバルin堀之内貝塚」を開催予定です。
例年ご好評いただいている、摩擦式の火
おこし体験、縄文服の試着体験や弓矢を射る体験
など古代人の生活を体験できる貴重な機会となってい
ます。

また、その他にも組みひも体験や火打ち石を使っ
た火おこし、紋切りあそびなどのさまざまな体験を実
施予定です。キッチンカー等も出店予定ですので
ぜひご利用ください。

来場に際しての事前申し込みは不要ですが、
体験によっては一部有料のものががあります。
※内容は都合により変更になることがあります。

期 間：令和6年3月24日(日)

時 間：10時～14時

※日程等が変更になる場合には
当博物館のWEBページや
広報いちかわにてお知らせいたします。

場 所：考古博物館・歴史博物館
・堀之内貝塚公園

※当日は駐車場の混雑が予想されるため、
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

※雨天時は縮小開催、荒天時は中止となります。

申込不要 ※先着順・一部有料

【当館利用者の皆様へのお願い】

- ・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
- ・見学の際、展示ケース等の館内の物には触れないようにお願いします。

市川考古博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-26-1

☎ 047-373-2202

市川歴史博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-27-1

☎ 047-373-6351

休館日のお知らせ

2月5日(月)
～2月9日(金)

上記の期間は、休館日と
させていただきます。
あらかじめご了承ください。



シリーズ 鬼高－真間－国分 その17 須恵器研究法の多様化(6)

分析用の試料を土器から採取するとき、わずかな量ですが対象から削り取る三辻利一の方法は、対象資料の小片化をまねきました。やがて、産地同定の精度がかえって下がり、後の研究に支障を来すなどの悪循環に陥りました。

その一方で、三辻の研究方法も改善すべきことが明らかになってきたのです。

研究の開始期には、大阪府陶邑窯が大和政権の勢力下に広く大量の須恵器を供給して、日本列島の最大規模かつ最古級の窯と見做されていました。そのため、消費遺跡で出土した古相の須恵器は、陶邑窯を軸に別の窯との二択で分析をすれば高い確率で判別ができました。

しかし、7世紀後半以降になると窯の数が格段に増えるうえに、流通の範囲や量における陶邑窯の優位性が低下します。また、有力な窯が他にいくつも登場し、製作技術を伝播して各地でさらに窯が作られたり、離れた窯同士で化学

分析結果が類似する場合も増えました。

例えば関東地方では、埼玉県鳩山窯が8～9世紀を中心とした大規模な窯跡として良く知られています。一方千葉県内の代表的な窯として市原市に永田・不入窯があり、三辻による胎土分析では両者の須恵器から極めて似ている数値が得られ、百キロ以上離れているにも関わらず良く似た化学特性を持っていることが明らかとなりました。

三辻は市川出土の須恵器を分析した際に陶邑窯も候補に入れて対比しましたが、考古学で陶邑窯産と推測できた須恵器は1点もありません。また、考古学だけで無く胎土分でも鳩山窯と永田・不入窯のいずれの製品か見分けられない個体が複数存在しました。分析対象の多様化とともに、産地同定には新たな方法が求められたのです。

(考古博物館学芸員 松本 太郎)

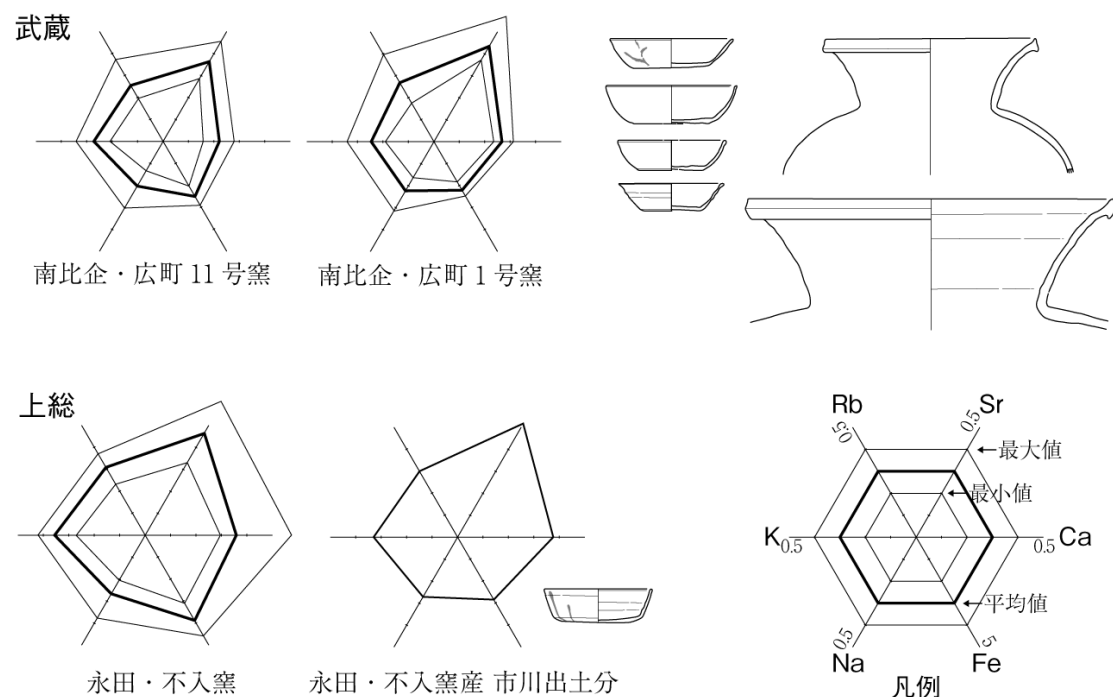


図1 南比企窯と永田・不入窯の元素比モデル
(分析値を便宜的にレーダチャート化)

古写真絵はがきにみる市川市域⑨ -真間山より瞰たる市川町-

今回は、「真間山より瞰(み)たる市川町」といったタイトルの写真絵葉書について紹介いたします。この絵葉書の発行年については、表面の宛名と通信文の記載欄が上下半分に分かれて区切られていることや、「きかは使郵」と記されていることから、1918年(大正7)から1932年(昭和7)の間に発行されたものと考えられます。

写真からは、台地上にある真間山弘法寺の境内から現在の真間2丁目から3丁目方面が望まれ、左側は真間4丁目の真間山下の辺りで中央には真間川の護岸の様子が写されており、全体的には現在より木々が多かったものの住宅が密集していた様子が窺えます。

この時期の市川町域は、市川・真間・市川新田・平田・国府台といった5つの区に分かれ、国府台の軍用地の南側

から現在の国道14号ぐらいまでの市川地域と京成線と総武線の間の真間や市川新田地域の都市化が始まっており、市川・真間・市川新田には商業者や会社経営者などの住居が多数ありました。

1923年(大正12)の関東大震災以後には、主に東京方面からの罹災者が市川町やその周辺地域等に移り住み人口が増加したこともあり、1934年(昭和9)11月3日に、市川町・八幡町・中山町・国分村の3町1村が合併し市川市が誕生します。この時期の市域の人口は40,869人となり、その内の21,860人は旧市川町域の人口で50%余りを占めていました。

本年は市制施行90周年を迎える年で、この写真絵葉書からは市制施行より少し前の市川町域の風景を見ることができます。

(歴史博物館学芸員 小野 英夫)



【写真1】真間山より市川町